



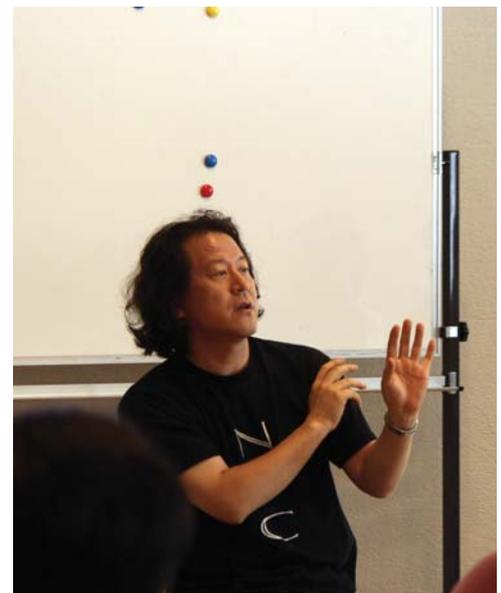
開校当時の打瀬小学校の保護者が、地域と学校の活動の様子を発表。地域の全戸に毎月発信された学校からの情報に、新しい教育の始まりを感じ、興奮したという（第一部：「親たちの証言」より）。



「親たちの証言」を聞く参加者。この日参加した住民の大半は当時はまだベイタウンにいなかった。街開き当時の地域と学校の取り組みは、現在の住民にも新鮮な驚きを与えた。

地域と教育を考える

去る7月20日、公園東の街コミュニティ・ルームで住民約50人が参加した教育フォーラムが行われた。主催は「まちづくり研究会」。街作りという営みの中で子育てや教育はどんな位置を占めるのか。ベイタウンニュース8月号では2ページにわたってこのフォーラムを特集した。



「地域と教育」のタイトルで語る金子郁容先生。ジーンズにTシャツという飾り気のないスタイルは講演の内容と共に大きな共感を得ていた（第三部より）。

特集 ミニ・フォーラム ベイタウンは 打瀬っ子を育てられるか

このフォーラムに参加した3人の打瀬っ子たち（第二部：「打瀬小卒業生たちの証言」より）。



小学校開校当時六年生（現在は高三）だった山畑君。開校式では児童代表で挨拶をした。打瀬小学校へ転校した動機は、ズバリ「新しいことにチャレンジしたかったから」。

同じく開校当時六年生（現在は高三）の角幡草太君。初代の打瀬小学校児童会長。山村留学の経験もある角幡君にとって地域と学校が深く係わるのは当然だった。



小学校開校当時五年生（現在は高二）の金沢君。児童全体から募集した校章案で、金沢君の打瀬舟を描いたデザインが選ばれ、現在の打瀬小学校の校章となった。

特集：地域と教育を考えるフォーラム

ベイタウンは打瀬っ子を育てられるか？何とも奇妙だが気の利いたタイトルだ。育てられるかという表現には当然ながら育てたいという願望が含まれている筈であり、するとその対象である「打瀬っ子」とはいったどんな子なのかという疑問が出てくる。今回のフォーラムは改めて地域で育てたい打瀬っ子の姿を探るというテーマを、打瀬小学校開校時の子どもたちとその保護者の、当時の体験談や感想から考えるという取り組みで行われた。

ベイタウンでは教育関連の住民フォーラムが盛んに開催される。「ベイタウンの子育て、世界の子育て」、「共育ワークショップ」、「教育フォーラム—AT講座を考える」と、ざっと考えただけでも幾つかのフォーラムが思い浮かぶ。それだけ教育熱の高い街ということができるのかも知れない。しかし、今回のフォーラムの特徴のひとつは「街作り研究会」という一見教育とは無縁なグループが、街作りの視点から教育を考えるフォーラムを開催したという点だ。ここには明らかに従来の教育論とは違った視点が感じられる。

当日の参加者は約50人。フォーラムは、第一部の「親たちの証言」から始まった。打瀬小学校の開校当時、「どんな学校をつくりたいか」という問いかけが、赴任まもない小学校長から地域住民のすべてに対してなされたこと。これに刺激されて当時の小学校の保護者が学校や子どもたちの理想像を真剣に考えたこと。また「自分たちが学校運営や教育に参加できる」という意識が芽生えたことな

どが当時の保護者の口から体験談として語られた。

第二部「打瀬小卒業生たちの証言」では、開校時5、6年生だった卒業生から、当時130人程しか児童のいなかった小学校で、校歌や校章を考え、児童委員会を運営し、学校づくりを一からはじめた様子が紹介された。今は高校生になった卒業生たち。大勢の大人達を前にしても堂々と自分の考えを述べる彼らの姿に、このフォーラムが求める「打瀬っ子」を見た参加者も多いだろう。

第三部では、慶応幼稚舎の舎長（校長）である金子郁容氏を迎え、「地域と教育」のテーマでお話をいただいた。金子先生は昨年答申を出した教育改革国民会議の委員でもあり、同会議では地域住民が作る学校である「コミュニティ・スクール」を日本でも、と提案している。本来ならこの程度の規模の住民フォーラムにはお招きするのは難しいが、打瀬小学校を抱えるベイタウンと、その住民の活発な活動に興味を持たれて講演をお引き受けいただいた。革新的な打瀬ならコミュニティ・スクールの実験も、と考えるのは短絡に過ぎるが、人口の予想を超える伸びに、そろそろ議論に上り始めた第三小学校なら、地域で作るコミュニティ・スクールに近いもの

を考えるのもあながち夢ではないのかも知れない。

次の第四部との間の休息时间、打瀬小学校初代校長の溜昭代先生と金子先生の出会いをフィルムに収めることができた。溜先生はかつての臨時教育審議会のメンバー。お二人が直接お会いするのは初めてと聞いたが、理想の学校像について旧知の仲のようにかみ合った話をされている様子だった（写真）。

最後の第四部では、これまでの発表を踏まえてのフリーディスカッションを行った。教育あるいは子育てを地域でどう支えるか、その際に学校との関係はどうするのがよいか。様々な意見を出し合いながら、ゆったりとした共通の認識をベイタウンの中で育てたい。参加者の中からは早くも次回のフォーラムを望む声が出ていた。【松村】



Who's Who Vol.17

今回はフォーラムにも出た「打瀬っ子」のひとり、金沢陽介君に登場してもらった。実はベイタウンニュースでは、いつか打瀬小／中学校を卒業した若い世代を取り上げたいと思っていたが、今回フォーラムの準備をするなかで多くの打瀬小卒業生に会うことができ、念願叶ってそのなかの一人、

ようすけ 金沢 陽介くん

パティオス
1番街在住

金沢陽介にインタビューすることができた。「打瀬っ子」の魅力を描くことができれば幸いである。

金沢君は現在高校二年生。街開きと同時にベイタウンに入居し、「普通」の小学校から、門のない打瀬小学校へ転校してきた。転校当時は五年生だった。金沢君を語るうえで欠かせないのは、彼が打瀬小



学校の校章をデザインしたことだ。児童の全員から募集された案のなかから投票により3つの案が残った。しかし、「まさか自分のデザインが選ばれるとは思ってもいなかった」だけに、六年生の先輩から「お前のがきまりそうだ」と聞いたときの喜びは今でもはっきり覚えているという。校章のデザインは児童の原案をプロのデザイナーがいると書き換えてしまうのが通例のようだが、金沢君のデザインは舟の傾きを少し変えただけで、色使いなどもほぼそのままに現在の打瀬小学校の校章となって、学校正面玄関の上に銅板レリーフとなって収まっている。

若い人をインタビューしていて、昔のことを思い出したという訳でもないが、高校の授業で「人間には楽道家と厭世家しかいない」と習ったことがある。その分類をあてはめれば、彼は間違いなく前者に入るだろう。インタビューしていても、人なつっこい笑顔でこちらまで楽しくなる。大の大人を前にしても臆すことなく話すその明るさに、ついこちらも応援したくなる。

スポーツ好きの金沢君の得意なのはサッカー。打瀬中学校時代も部活はサッカーだった。今も中学のサッカー部の練習や試合をよく見に行く。サッカー好きのお父さんたちが集まる「パパス」のことを話すと、「やってみようかな」と興味を示した。

将来の夢を聞くと、「高校に入って化学を習い、化学って面白いと感じたので、将来は工業化学の勉強をしたい」と思うが、「ディズニーランドのアルバイトで人にもものを教えることの楽しさを感じたので、先生」にも興味があるという。君ならどんな道に進んでも大丈夫、と思わず言いたくなった。

恒例の撮影ポイントは打瀬小学校の門柱横。「小学校の校庭では硬いボールが使えないので、中学校のグラウンドの方によく行く」という金沢君。スポーツ好きの青年らしく、健康的な魅力にあふれた表情が印象的だった。「美男子だね。モテるだろう」と聞いたが、「そんなことないスよ」と笑ってかわされた。【松村】

保育園の建設工事がよいよ始まる

保育園の建設工事が8月1日から始まりました。場所は打瀬小学校グラウンド向かい側の空き地です。開園は来年4月。入園申し込みはほかの保育園と同じで12月前半の予定です。

建設・運営にあたるのは社会福祉法人健育会。船橋市で神明幼稚園を30年以上経営してきた畑佐新次郎さん(74歳)が幕張ベイト

ウンで保育園を建設・運営するために新しく設立しました。

「母親は本来子供を産み育てるのが大事」と、女性の社会進出にはどちらかと言うと否定的な畑佐さん。それでも、「少子化で日本は滅びるのでは、というのが持論」「豊かになって生活するのに金がかかる世の中になった」と、時代の流れには抗しきれない様子です。幼児教育の分野から福祉の側面を併せ持つ保育の分野に転じて、どのような施設運営をしていくのか、楽しみです。【茂木】



▲打瀬小学校のグラウンド側から見た建物。通園者はこちらから建物内に入りする。1階には0～2歳児の保育ルームや子育て支援センターなどを、2階には3～5歳児の保育ルームや一時保育ルームなどを配置している。小学校と同じように通り沿いのガラス面を大きくすることで、外から中の様子がよく見えるように工夫している。定員は90人。
◀建設予定地(7月末現在)。上の建物外観パースと同じ方向から見たところ。

畑佐新次郎さんはもと警察官。東京下町の警察署に勤務し、日に3～5件も起きる火災事件の捜査などに携わっていたという。



社会福祉法人の「健育会」という名前は心身ともに健やかに育てていきたいの思いからです。具体の保育内容はいま検討しているところです。ニーズに合わせて考えていきたいと思っていますが、一方で、保育園の運営を将来にわたって続けていくには、経費負担のことも考えに入れざるを得ません。「健育会」の理事の中には保育園運営の経験者もいるので、しっかり意見を聞いて保育内容を固めていきたいと思っています。

畑佐さんが警察官をやめて設立した神明幼稚園の目標は、「元気な子」「やさしい心」「考える子」。鉄棒の逆上がりをはじめとする運動や、事件・事故の捜査経験を生かした安全教育などに力を入れています。

「公民館を語る会」開催

去る7/14(土)、10番街集会室において、コミュニティ・コア研究会の主催で「幕張新都心公民館(仮称)を語る会」が千葉市教育委員会、コア設計者高谷氏他を招いて開かれた。コミュニティコアは公民館・図書館分館・子どもルームの3つの施設が入る複合施設で、県企業庁が建設し、千葉市が運営する方式であり、今回の語る会は、このうちの公民館部分について運営主体となる千葉市の説明を聞く形で行なわれた。住民参加は約30人であった。この説明会の議事録についてはコア研HP(<http://www.baytown.ne.jp/core/>)でも閲覧できるので、この記事では当日の傍聴で記者が気になった、今後のコア運営とピアノ選定の問題についてのみ述べる。

まず、運営については、住民が運営に係わることができる協議体をどのように作ってゆくかが今後の最大の問題点となる。現在の公民館運営では「審議会」や「懇談会」が設けられ形式上は利用者としての住民の要望が反映される仕組みになっているが、今回の説明会で聞く限りこれらの組織が有効に機能しているとは感じられなかった。また、公民館の運営は、管理者つまり公民館長によって運用が相当異なる。公民館長の人事が大きな焦点となる所以であるが、今回の説明会ではその基準として、「地域に理解と信望があること」、「生涯学習についての意欲と経験を持つこと」の2点を重視するとの答えを得た。

コアには計画当初から本格的なホールをという声

が強かったが、このホールに対する要望は、公民館内に200人程度収容可能な「小さくてもキラリと光る」音楽ホールを設置することで実現されている。ここで問題になるのはそのホールに置くピアノである。一般の公民館に置かれるアップライトピアノでは明らかにホールとはミスマッチ。住民側では選定委員会をつくり機種を検討を行っており、チャリティコンサートなどで20万円以上の寄付金を集めホールにふさわしいピアノ購入を求めている(ピアノについてはその後の会合で、「通常のピアノ(アップライト)とは異なる高い水準のピアノを配置すべく平成14年度予算で措置したい」という答えを市側から得た)。

今回の語る会の後7/28にもコア研では市側と協議を行い、ピアノ選定問題以外にも多くの進展があった。詳しくは前記コア研HP参照。【金】



「語る会」に参加して

私は、ベイトウンに越してきて4ヶ月の新人住民です。趣味でピアノを弾いているため、ホールのピアノ問題には、興味もっていたので、今回、コア研究会主催の公民館説明会に参加してみました。

コアに寄せる住民の熱意は生半かなものではないようです。初参加の私には、市役所の皆さんが住民からの要望や鋭い質問に相当押されているように見受けられました。正当な要求を出して、コアの建設や運営に、私も一住民として参加してゆくべきだと感じました。

懸案となっているピアノ購入について、コアの設計者によると、ホールは、天井高、席、音場としては残響が長めということで、教会の礼拝堂のような印象になるということでした。「公民館」というより、立派な「小ホール」だといえるでしょう。ハードに見合う質の高いグランドピアノを入れなければ、せっかくのホールの能力が十分に発揮されない結果になりかねません。新人住民の私も、これを機にベイトウンの街作りに参画するのも面白いかも・・・と思っています。

井上紀子(シータワー在住)

Jazzでスイング♪ 新入居者 歓迎パーティー “セント (CP) 千人の並木道”

皆さん“並木道”と聞くと、「落ち葉を踏みしめ、静かに散歩」というイメージが浮かぶかもしれませんが、7月14日のセントラルパーク(以下、CP)のケヤキ並木では、ちょっと違った趣で、熱く楽しく賑やかに、新入居者歓迎パーティーが開かれました。

「他街区からの参加大歓迎! 15:00~20:00のご都合のよい時間に、お友達とお誘いあわせの上お越しく下さい」の呼びかけで、参加した人たちは1000人以上!! リンコスの協賛で、子どもたちのソフトドリンクが無料提供され、「おいしい~!!」と、皆にここに顔♪でした。

また、18:30からのサンセットライブ(マクハリ・ジャズ・カルテット&ベイタウン中年バンドによるコンサート)では、Jazzナンバーとしても有名なDisneyの“星に願いを”や、久保田利伸の曲など、バラエティに富んだ選曲で、老若男女+散歩中のワンちゃんまで、寛ぎのひとときを持ちました。“ゆったり寛ぎ組”がいる一方、“宴もたけなわ組”は「梅雨明けを祝って乾杯しました」「Jazzを聴きながらのビール、最高!!」など、ビールやワインのセットも600人以上の喉をうるおし、子どもたちのドリンクも「推定700杯以上、配りました」と、販売担当の女性たち(ベイタウンニュースサポーターの4人+2人)も日焼けと腰痛に負けず、頑張っておられました。30人以上のスタッフの“努力の賜物”で、その日の子どもたちの喜びようは「今日は、初めてゆかたを着て大はしゃぎ。バンドの人たちと写真撮っちゃいました」のは5才の女の子。「この子、音楽が鳴ると踊りだしちゃうんですよ」と、演奏にあわせて楽しくスイングしていたのは、ブルーのサンドレスの2才半の女の子。「他の番街だと、早く帰らなくちゃいけないけど、今日はCPだったので思いっきり遊べた。すごく嬉しかった」のは小学生男子、仲良しふたり組。途中、店の皆さんと一緒に、会場に寄られたリンコスの中村店長も「新しい方々の、御入居を歓迎する意味をこめまして、協賛させていただきました。たくさんの方々に楽しんでいただけて嬉しく思います」との事でした。

主催の田坂さんは「ベイタウン全域とCP・CP新住民の親交を深めようというのがこのイベントの目的でした。(我々の街区パワーを周囲に見せつけ、ちょっと先輩で人口が同じ位のGPに負けてたまるかというのも、私の個人的な目的ですが…(笑))。それと、これも私個人のWILLですが…ケヤキ並木はCPの領地ですが、誰もが通行可能な場所です。『単なる歩道に地代や管理費がかかるのは納得いかない』という論議のもとにゲートが出来たり、並木や街灯の管理費が削減されることなく“我々の街区にはこんな素晴らしい場所があるのだ”と、CPの住民全てが誇りをもって並木道を開放できるようなコンセンサスを作りたかったのです。そして、イベントを終えた今『並木道はイベントの舞台として最高のハード』だと確信しました。また、テーブルを片付けた後のゴミの無さと、終了後、当然のように机運びに参加するベイタウンナーのマナーのよさに敬服しました。次は並木道で光のトンネルもいいですね!」との事でした。“ベイルナミエ”実現も、間近なのでしょうか!?

【浜田】



海浜幕張駅前に映画館ができる!

新聞などでこんな記事をご覧になって今から楽しみにしていられっしやる方も多いのではないのでしょうか。

2002年6月、海浜幕張駅北口にオープン予定の「シネプレックス10幕張」は、今

流行のシネマコンプレックス(複合映画館)スタイルの映画館です。

飲食店やゲームセンターなどのアミューズメント施設が1階を占め、2階が最新音響設備とビッグスクリーンを備えた映画館

スペース。最少114席から最大428席(予定)から成るシアターが10館集まり、子どもから大人まで楽しめるロードショー作品を中心に上映されます(500台収容可能な駐車場を併設)。

設備面での目玉は“THX”と呼ばれる、ジョージ・ルーカスが承認する音響・映像設備で(1館に設置)、これにより高品質のサウンド・映像が忠実に再現されます。

また、映画ファンにうれしい情報が二つ。一つはミニシアター作品の上映も予定されていること、もう一つは勤め帰りの人も立ち寄れるレイトショー(最終上映9:00~10:00を検討中)を1200円の割引料金で楽しめること(通常1800円)。

このほかにも毎週水曜日は「レディースデー割引(1000円)」、毎月1日は「ファーストデー割引(すべてのお客さま1000円)」があるそうです。

会社の帰りに家族や友だちと待ち合わせて映画館へ、週末の夜の楽しみがひとつ増えそうです。(取材協力:ヘラルド・エンタープライズ株式会社)

【佐藤】



完成イメージ

ギャラリーキキがオープン、シニアのスペースも用意

「8月17日、17番街に“ギャラリーキキ”がオープンいたします。ギャラリーの一角には、シニアの方々が集える場所を用意いたしました。シニアの皆さん、一度、覗いてみてください。」

岩手県水沢市の子どもたちとの交流

- 水沢市内の龍徳寺（近代的な施設で清潔です）に宿泊し、水沢の子どもたちと、もちつき、北上川ボート体験、座禅、地元の農家での野菜収穫などを行います
- 費用は各自1万円+往復の新幹線代
- 期日：2001年9/22（土）～24（月）（2泊3日）
- 主催：地元のボランティア団体「ぐるーぷれいんぼう」
- 申し込みおよび問い合わせ：白石真澄（#7-218/TEL:211-7384）
- 〆切：8月末日
- グループに大人が1、2名同伴できること

アーベイン東比恵駅前（福岡県福岡市）

九州の陸の玄関口 JR 博多駅と、空の玄関口福岡空港の中間に位置し、福岡市の中心「天神」まで約8分と、利便性の高い地下鉄「東比恵駅」前に、今年4月「アーベイン東比恵駅前」が誕生しました。

「地下鉄東比恵駅周辺地区市街地整備基本計画」に基づいて、平成9年3月に1棟目の建設に着手して以来、計4棟349戸の高層賃貸住宅をつくってきました。

博多のまちの文化遺産「博多べい」を再現した「ときの広場」、そこから敷地中央を貫く公共的通路「博多の路」、敷地外周には特色のある街角広場や安全で緑豊かな歩道を整備するなど、周辺の住民の方々にもゆとりやうるおいを与え、都心部の定住促進に寄与しています。

（「博多べい」とは豊臣秀吉により行われた博多町割りを語り継ぐ土堀で、現在は博多区櫛田神社境内に残されています。）



賃貸住宅のお問い合わせは
総合募集センター津田沼案内所
TEL：047-478-3711
公団住宅の駐車場のお問い合わせは
日本総合住生活（株）千葉支店



都市公団

ベイタウンバレーボールクラブが準優勝

以前ベイタウンニュースでも紹介したゴムバレーのクラブが、先日の千葉県女子バレーボール大会の美浜ブロックで準優勝しました。「最初はパスもおぼつかなかった人がほとんど」というチームでしたが、よくぞここまで。

健康とストレス解消のため、バレーボールを始めませんか。ゴムバレーなので初心者でも気軽に始められます。

練習：毎週日曜日 午後1:30～4:30、水曜日 午後7:00～9:00、
打瀬小学校アリーナにて

連絡：柴崎（8番街 TEL:211-0729）



■打瀬保育園の畑佐新次郎さんも本音を言えば、これまで長年の間、経験と実績を積んできた幼稚園にも関心がある様子。そう言えば、昨年の9月発行号で保育園の建設が決まったことを記事にしたときも、幼稚園誘致はどうなっているの？と読者からメールをいただきました。「○○幼稚園は進出に意欲をもっている」「△△幼稚園では土地代×億円が示されたけど、高いので見送った」など、いろんな情報が飛び交っていますが、真相は？

情報をお持ちの方はぜひお寄せください。

記者：#7-305 茂木俊輔（T&F:211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp）

■以前、ベイタウンニュースの特集としてベイタウン内で発行されているコミュニティ紙を取り上げたことがありますが、その内の一つ、ベイタウンシニアクラブが発行する「オアシス通信」の最新号を読ませて頂きました。7月15日付の第7号ですが、内容の濃さと活動や話題の多彩さに驚いてしまいました。その内容を私が文書で説明するよりも、機会があればぜひ一読されることをお勧めします（2番街掲示板に毎月掲示されています）。

金一剛（#3-220/T&F:211-0388/ikkim@xa2.so-net.ne.jp）

■こちらに越して来て何か月か経った時、（ベイタウンって、紀元前5世紀頃のアテネに似ているかも…）と思った事があります（または、信長、秀吉の頃、会合衆のいた“堺”かな??）。今回のセントラルパークのパーティーでも、楽しく飲みかわす人たち+文化的イベント（コンサート）+アルカディアを目指す人たち（有志の実行委員の方々）を見て、（昔のアテネの街角も、こんな感じだったのかも…）と、思っていました。しかし、感触だけで、詳しい事を調べる資料が手元にはありません。ということで、コアの図書に“自治都市の歴史”のような本をリクエストしようかと、考え出した今日のごろであります。

浜田貴代子（公園東の街/atmark@pop01.odn.ne.jp）

■この7月は記録と記憶に残る暑さ！先日、遊びに来ていた姪っこを連れて猛暑の中、10番街に隣接する公園に「確か水の流れがあったはず」と思い行ってみたら、水は全然流れていず石がゴロゴロ、ゴミも浮いていて、水遊びどころではありませんでした。川底を小石にすればきれいな水が流れていたなら、どんなに子どもたちで賑わうでしょう。それにしても、炎天下木陰のある公園がないためか日曜日というのに子どもたちの遊ぶ姿は見当たりませんでした。

佐藤則子（#3-310/T&F:211-0090）